



## 共通デバイス設定

共通デバイス設定を設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「共通デバイスの設定値」(P.77-1)
- 「共通デバイス設定と影響を受けるデバイスとの同期化」(P.77-5)
- 「関連項目」(P.77-6)

## 共通デバイスの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] メニューパスを使用して、共通デバイス設定を行います。

共通デバイス設定は、ユーザ固有のサービスと機能の属性で構成されます。各デバイスが、ユーザ向けの共通デバイス設定情報に関連付けられていることを確認してください。



(注)

[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウには、ロケーション関連情報だけが表示されるようになりました。すべてのユーザ向け情報は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで記録されます。

### 共通デバイス設定の削除のヒント

デバイスが使用している共通デバイス設定は削除できません。共通デバイス設定を使用しているデバイスを検索するには、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中の共通デバイス設定を削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用中の共通デバイス設定を削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する共通デバイス設定を使用しているデバイスすべてに、別の共通デバイス設定を割り当てます。
- 削除する共通デバイス設定を使用しているデバイスを削除します。

## GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、「Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作」(P.1-13) およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

## 設定値表

表 77-1 では、共通デバイス設定の設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「関連項目」(P.77-6) を参照してください。

表 77-1 共通デバイスの設定値

フィールド	説明
<b>[共通デバイス設定情報(Common Device Configuration Information)]</b>	
[名前(Name)]	共通デバイス設定を識別するための名前を入力します。
[ソフトキーテンプレート(Softkey Template)]	ドロップダウンリスト ボックスから、共通デバイス設定のソフトキー テンプレートを選択します。
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	ユーザが保留操作を開始したときに Music On Hold (MOH; 保留音) として使用するオーディオ ソースを選択します。
[ネットワーク保留 MOH 音源(Network Hold MOH Audio Source)]	ネットワークが保留操作を開始するときに、保留音 (MOH) に使用するオーディオ ソースを選択します。
[ユーザロケール(User Locale)]	ドロップダウンリスト ボックスから、共通デバイス設定のロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。 <b>(注)</b> ユーザがユーザ ロケールを選択しない場合は、Cisco Unified Communications Manager clusterwide パラメータでデフォルト ユーザ ロケールとして指定されたロケールが適用されます。
[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)]	Cisco Unified Communications Manager Business Edition 5000 は IPv6 をサポートしないため、この設定は Cisco Unified Communications Manager Business Edition 5000 には適用されません。
[シグナリング用の IP アドレッシングモード設定 (IP Addressing Mode Preference for Signaling)]	Cisco Unified Communications Manager Business Edition 5000 は IPv6 をサポートしないため、この設定は Cisco Unified Communications Manager Business Edition 5000 には適用されません。
[電話の自動設定を許可 (Allow Auto-Configuration for Phones)]	Cisco Unified Communications Manager Business Edition 5000 は IPv6 をサポートしないため、この設定は Cisco Unified Communications Manager Business Edition 5000 には適用されません。

表 77-1 共通デバイスの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、この共通デバイス設定に関連付けられたデバイスでは、信頼できるリレーポイントが使用可能になります。</p> <p>Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレーポイント) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダデバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに対して、またはエンドポイントに関連付けられている共通デバイス設定に対して、[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] チェックボックスがオンになっている場合、Cisco Unified Communications Manager はエンドポイントに TRP を挿入します。エンドポイントデバイスには、SIP、H.323、MGCP、および SCCP デバイスなど、メディアの終端となる任意のデバイスを指定できます。たとえば、SCCP を実行している電話機、CTI デバイス、MoH サーバ、アナウンシエータ、および会議ブリッジなどを指定できます。</p> <p>デバイスの [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値に [オン (On)] または [オフ (Off)] が指定されている場合、このデバイス設定値は、デバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイントデバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク仮想化および信頼できるリレーポイントの詳しい説明については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディアリソースの管理」の章の「信頼済みリレーポイント」の項、およびそのサブトピックを参照してください。</p>

表 77-1 共通デバイスの設定値 (続き)

フィールド	説明
[アウトバウンドコールに Intercompany Media Engine(IME)を使用 (Use Intercompany Media Engine (IME) for Outbound Calls)]	<p>このドロップダウン リスト ボックスでは、この共通デバイス設定に関連付けられているデバイスに対して Cisco IME を無効または有効にします。</p> <p>デバイスで Cisco Intercompany Media Engine 機能を使用してコールを発信できるようにするかどうかを示します。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[オン(On)] : デバイスで Cisco Intercompany Media Engine コールの発信を許可します。</li> <li>[オフ(Off)] : デバイスで Cisco Intercompany Media Engine コールの発信を許可しません。</li> <li>[デフォルト(Default)] : [アウトバウンドコールに Intercompany Media Engine(IME)を使用 (Use Intercompany Media Engine (IME) for Outbound Calls)] 機能設定のパラメータ ([拡張機能(Advanced Features)] &gt; [Intercompany Media Services] &gt; [機能設定 (Feature Configuration)]) の値を使用するには、このオプションを選択します。</li> </ul> <p>デバイスを共通デバイス設定に関連付けるには、Cisco Unified IP Phone など、そのデバイスに [共通デバイス設定(Common Device Configuration)] の値を設定します。</p> <p>Cisco Intercompany Media Engine の詳細については、『Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide』を参照してください。</p>
<b>[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption Information)]</b>	
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>この設定値は、デバイスが MLPP 優先コールを発信する場合、優先トーンを再生できるデバイスで MLPP の機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[デフォルト(Default)] : このデバイスは、MLPP Indication Status エンタープライズパラメータから [MLPP 表示 (MLPP Indication)] 設定値を取得します。</li> <li>[オフ(Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。</li> <li>[オン(On)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。</li> </ul> <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ(Off)] または [デフォルト(Default)] (デフォルトが [オフ(Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせで設定することはできません。</p> <p>(注) エンタープライズパラメータまたはデバイス レベルで [MLPP 表示 (MLPP Indication)] をオンにすると、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の呼出音設定が動作しません。</p>

表 77-1 共通デバイスの設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>この設定値は、デバイスが MLPP 優先コールを発信する場合、進行中のコールに割り込みできるデバイスで MLPP の機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default)] : このデバイスは、MLPP Preemption Setting エンタープライズ パラメータから [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定値を取得します。</li> <li>• [無効 (Disabled)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにしません。</li> <li>• [強制 (Forceful)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。</li> </ul> <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせで設定することはできません。</p>
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この共通デバイス設定に関連付けられている MLPP ドメインを選択します。このフィールドを [なし (None)] のままにした場合、このデバイスは MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータの値セットから、MLPP ドメインを取得します。</p>

**追加情報**

「関連項目」(P.77-6) を参照してください。

## 共通デバイス設定と影響を受けるデバイスとの同期化

デバイスと設定を変更した共通デバイス設定を同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります)。

**手順**

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] の順に選択します。  
[共通デバイス設定の検索と一覧表示 (Find and List Common Device Configurations)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。  
検索条件に一致する共通デバイス設定がウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 該当するデバイスを同期させる共通デバイス設定をクリックします。[共通デバイス設定情報 (Common Device Configuration Information)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 他の設定変更を行います。

## ■ 関連項目

- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。  
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。
- 

**追加情報**

「[関連項目](#)」(P.77-6) を参照してください。

## 関連項目

- 「[共通デバイス設定](#)」(P.77-1)
- 「[共通デバイスの設定値](#)」(P.77-1)
- 「[共通デバイス設定と影響を受けるデバイスとの同期化](#)」(P.77-5)
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[信頼済みリレー ポイント](#)」